

# 第 53 回インナーゼミナール大会

## 研究計画書

ゼミ名	森ゼミ	チーム名	探偵！リスクスクープ
タイトル	リスク好きは誰か		
テーマ群	g)その他		
メンバー	福田来樹、安堵利治、楠田七望、灰田彩夏、上野風哉、後藤立輝、酒田怜、木下太雅、大倉璃万、山縣芽衣		
研究計画内容	<p><b>【研究背景】</b></p> <p>日常とは選択の連続である。ある選択をとった結果、もう一方の選択をとったほうがより良い結果となってしまったといった失敗をすることもしばしばある。さまざまな選択をとっていく中で、リスクを恐れてよりリスクの少ない行動をとる人もいれば、リスクを恐れずリスク度の高い行動をとる人もいる。例えば、金融資産の構成は家計ごとで異なる。伊藤・瀧塚・藤原（2017）によると、日本は欧米諸国と比べてリスク回避的な資産構成であることがわかった。私たちはこのようなリスク選好度の違いにはある一定の傾向があるのではないかと考えた。そこで、リスク選好度の高い人はどのような特徴があるのかについて調べていくことにした。</p> <p><b>【研究内容】</b></p> <p>今回私たちははじめにリスクに関する設問を作成してアンケート調査を行い、それを用いて重回帰分析などを行っていく。重回帰分析などではリスクを選好する人の特徴を Y とし、アンケート調査から得られる年齢、性別、待ち時間、衝動買い、賭け事などに関する要素を X として実証していく。そして有意水準を 5% とし、これを満たした要素をまとめることでリスク選好度の高い人の特徴を明らかにする。</p> <p><b>【期待される効果】</b></p> <p>リスク選好と一つの要素について単回帰分析をしていくのではなく、様々な要素を用いて重回帰分析をしていくことで、それぞれの要素が密接に関係しあっているかどうかわかるようになる。これによって、一つの要素だけで分析をした時では見えなかった部分を明らかにすることができ、正しい結果を導き出すことができる。</p> <p>また、リスク選好度の高い人の特徴に当てはまった人は自分のリスクに対する考え方を見直すきっかけづくりができる。例えば、保険は自身のライフプランを考えていく中でとても重要である。リスク選好度の高い人は保険を見直すことによって、自分の今後の人生をよりよくしていけるだろう。</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>伊藤雄一郎、瀧塚寧孝、藤原茂章（2017）「家計の資産選択行動 — 動学的パネル分析を用いた資産選択メカニズムの検証 —」（日本銀行ワーキングペーパーシリーズ、<a href="https://www.boj.or.jp/research/wps_rev/wps_2017/data/wp17j02.pdf">https://www.boj.or.jp/research/wps_rev/wps_2017/data/wp17j02.pdf</a>、2023 年 10 月 31 日）</p>		